

令和7年度富山県立大学入学式式辞

令和7年4月7日（月）
アルビス小杉総合体育センター

今日ここに迎えた741名の新入生の皆さん、そして、ご家族の皆様、ご入学おめでとうございます。今日の日を迎えられたことを心よりお喜び申しあげます。私たち教職員は、心から皆さんのご入学を歓迎いたします。

また、本日は、新田富山県知事をはじめ多くのご来賓の皆様のご列席のもと、令和7年度富山県立大学の入学式を挙行できますことは誠に喜ばしく、教職員を代表し、関係の皆様方に、心から御礼を申しあげます。

皆さんは、入学試験に見事合格され、めでたく本日の入学式を迎えられました。こうして選ばれた皆さんは、自ら研鑽に励み、地域、そして日本、世界の発展を担う人財として立派に成長し、社会に貢献されるものと期待しています。

本学は、平成2年に日本海側で初の工学系の大学として創設され、①学生を大きく伸ばす教育力の高い大学、②未来を志向した高度な研究を推進する大学、③広く開かれた地域社会に貢献する大学、を基本目標として、建学以来、富山県の知の拠点となるべく、地域の課題やニーズに的確に応えるとともに、優れて世界的な研究も展開しており、併せて学生の能力を大きく伸ばす行き届いた教育を行っています。こうしたことにより、本学が「地域に貢献する大学」や「就職に強い大学」として高い評価を受けていることは、皆さんよくご存知のことと思います。

そして、平成31年4月には看護学部の新設により工学系単科大学から複合大学へと発展し、医療・介護分野においても優秀な人材育成に寄与しています。

さらに、令和6年4月には情報工学部を新設し3学部となり、定員も515名となりました。現在、情報工学部のための新棟も現在建設中であります。情報分野の技術を身に付け、ものづくりや看護の分野で活躍できる人材の教育・育成、すなわち、3学部が融合した教育体制が確立しつつあります。

また、今年度から大学院看護学研究科に博士後期課程が開設され、2名の学生が入学しております。今後は、高度な専門的知識を有する人材の育成、リカレント教育などの要請に応えるためにも大学院の充実・強化を進めてゆく予定です。

さて、勉学に対する希望に燃えて入学された皆さんですから、大学に入学したら新しく取り組んでみたいと考えていることを持っていることと思います。

そんな皆さんに、私からの期待していることをお話ししたいと思います。それは、次の3つです。

- (1) 国際的な感覚を持つ。
- (2) チャレンジ精神を持つ。
- (3) 一生付き合えるような友人を作ろう。

日本はこの先、人口減少が急激に進みます。2050年には人口が9,500万人に減るとも言われています。地域社会は、人口減による超高齢化社会となるなどの課題が懸念されており、地方の公立大学には地域を活性化する人材を育成することが求められています。地域を活性化する人材には、どんな能力が求められるのでしょうか。

一つは国際感覚です。日本の経済活動を見てみると、海外とのやりとりが年々盛んになっています。また、海外からの観光客の急増で、人の行き来が益々盛んになっています。そんな国際社会の中で地方の課題を解決するためには、国際感覚が重要になってきます。日頃から国際的な話題に興味を持つとともに、海外の方と交流する機会、海外の歴史・文化に触れる機会に積極的に参加するなど、国際感覚を磨いてください。

二つ目は、チャレンジ精神です。何事にも積極的に挑戦するチャレンジ精神を持ってください。国内では、イノベーションの担い手であるスタートアップに対し、官民一体となって支援を行っています。革新的な技術を身に付け、世界と戦うことのできる人材が求められています。特に、ものづくりではそのような人材の不足が叫ばれています。そういうスタートアップ人材に求められるのがチャレンジ精神、起業家精神です。アントレプレナーシップと言われることもあります。ただ、チャレンジ精神は起業家だけでなく、幅広く技術者に求められるものです。4年間の大学生活の中で、是非とも身に付けるよう努力してください。

もう一つ、大学時代に最も大切だと思うのは、一生付き合えるような友人を作ることです。理系の大学では、研究室に所属し、同じ専門分野で同級生と切磋琢磨し、また先輩からノウハウを教えてもらうことになります。そういう縦や横の繋がりを大切にしてください。同じバックグラウンドの知識・体験を持つ友人は、卒業後、仕事で困った時に助けてもらえる可能性があります。仕事での新たな展開を巻き起こす可能性も大きいと思います。また、学内と学外で分野の違う友人を作るのも重要です。新しいことにチャレンジする際には、自分と考え方の違う友人が大変助けになります。

いずれにしても、一生付き合える友人を作るよう心がけてください。仕事を進める上でも、悩みが出てきたときにも、相談相手となってくれる友人の存在は大きな財産です。

「国際性」や「チャレンジ精神」というお話をしましたが、このようなことを言われると、新しいことを取り入れることに固執しがちになります。そうならないように気をつけることも大事です。

「温故知新」という言葉を聞いたことがあるかと思います。広辞苑を調べますと、「昔の物事を研究し吟味して、そこから新しい知識や見解を得ること」と書かれています。出典は『論語』です。

かの著名な物理学者寺田寅彦も、大正8年に『理学界』という雑誌に執筆した随筆の中で、「温故知新という事は科学上にも意義ある言葉である。また現代世界の科学界に対する一服の緩和剤としてこれを薦めるのもあながち無用の業ではないのである。」と書いておられます。「故きを^{ふる}温ねて新しきを^{たず}知る」の大切さを述べておられます。

ただ、皆さんには「新しきを知る」で終わってほしくはありません。是非とも、イノベーションを起こし、新しいものを創り出すことに繋げてほしいと思います。そこで、「温故知新」というよりも、「温故創新」という言葉を使った方がいいかと思います。「故きを温ねて新しきを創成せよ」です。この言葉を忘れず、学生生活に打ち込んでもらえればと思います。

大学、あるいは社会で求められる人材は、学ぶことに長けていることにも増して、閉塞感を打破するために、日本の中であるいは国際社会の中で、新しい物事を生み出すことのできる能力が求められています。

富山県立大学とその教職員は、皆さんにそのような能力を身に付けてもらうべく、授業や研究の環境整備を進め、皆さんが社会で活躍するよう支援をしております。

皆さんは、それぞれの志をもって本学に入学されたことと思います。その初心を決して忘れないでください。皆さんの前途には、たくさんのやりがいのある仕事があります。皆さんの将来は明るいものと私は信じています。初心を忘れず、社会に積極的に貢献するという夢や志を持って、これからの大学生活を有意義に送られることを心から祈念し、式辞といたします。

令和7年4月7日

富山県立大学 学長 小笠原 司